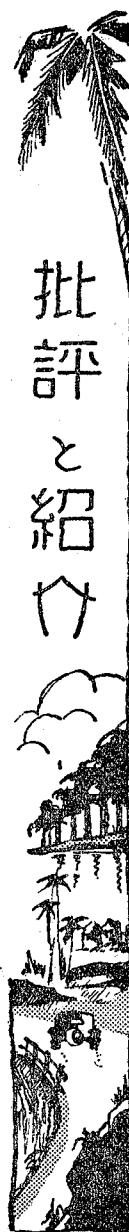


# 第七回 國際道路會議について

江  
守  
生



第七回、國際道路會議が愈々来る九月三日から八日まで六日間にわたつて獨逸、ミュンヘン市に於て開催されることに決つた。第六回の會議は昭和五年、米國ワシントン市に於て催され吾國からは内務省の藤井博士が政府代表として出席されたのであるが爾來四個年を経過した今日舞臺は再び歐洲に戻つて獨逸がその會議地にあてられたわけである。今回も吾國からは當然代表が派遣されることになろうがこう云ふ機會に各方面からなるべく多數の人を出して廣く各國の道路状態を観察せしめ又一方、吾が國道路の發達

状態を諸外國に認識せしむることは大いに意義あることである。

自動車の出現以來、世界的に道路状態は一變したことは各國ともその軌を一にしてゐる所であるが道路の發達は所謂日進月歩の有様で年々變つてゐる筈であるから此の四個年間に各國とも著しく變つて居ることであらう。此の機會に、道路行政、道路技術又は道路運輸なり全ての方面の關係者が統制あるチームワークのもとにその視察の實を遂げ價値ある土産を吾々の前に展開されんことを希望してやま

ない。

國際道路會議の目的は道路に關する各國の政策なり、技術なりを互に發表し研究し合つて國際的協調を保たんとするにあるのであるが、會議の際には便宜上、或る一定の議題を發表し各國から之に對して報告を提出し議場に於て互に討議をすることになつてゐる。今回之の議題は前回と略々似たものであるが前回以來の發達につき各々報告を出す様になつてゐる。

- 一、セメント系道路の發達。（特に滑止工法に就て）
- 二、タル、アスファルト及び乳劑を用ひたる道路の發達。（特に滑止工法に就て）
- 三、道路及び街路に於ける鋪装の築造及び維持方法。
- 四、道路、街路及び鐵道踏切個所に於ける交通整理。
- 五、道路車輛と鋪装面とに關する研究。

- 六、道路車輛の重量、幅員及び長さに關する取締法令。

右議題に對し吾が國では道路改良會が中心となり、各方

面の研究を報告書に纏めて會議に提出することになつてゐる。今まで吾國からは各會議に代表だけは申譯的に派遣してゐたが正式の報告書を提出したことは一回もない。従つて吾國の道路狀態については各國に紹介されたことが一度もなかつたわけであるが今度は道路改良會幹部の異常な努力により堂々たる報告書が國際場裡に發表されるに至つたことは非常に喜ばしい次第である。

吾が國の國際道路會議報告書作成委員會が始めて設けられたのは昭和七年十一月であるが各方面の權威五十七名を網羅した大掛りのものである。各議題別に小委員會を設け會合すること數十回各委員の努力により略々一ヶ年を費して大部の報告書に纏められたのである。右報告は恰度昭和八年十月に大阪で開かれた道路大會の席上に發表されたことは既に讀者の知つて居る通りである。

抑も第五回の國際道路會議が始めて催されたのは一九〇八年のことである。第一回の會議には吾國から故沖野として續けられてゐる。

技監が出席されその復命書には當時の道路事情の躍叙たるものがある。

第一回會議	開催地	バ リ	一九〇八年
第二回會議	同	ブラツセル	一九一〇年
第三回會議	同	ロンドン	一九一三年
第四回會議	同	セビル	一九二三年
第五回會議	同	ミラン	一九三六年
第六回會議	同	ワシントン	一九三〇年
第七回會議	同	ミュンヘン	一九三四年

終日視察旅行にあてられてある。之で道路會議は終りになるのであるが参列者に國內道路を視察する便宜を與へるため八日乃至十日間のプログラムで獨逸國中を旅行させる事になつてゐる。勿論之には相當の旅費を負擔しなければならないのであるが全ての點に便宜が與へられるであらうから遠來の参列者はなるべく之に参加する方が好い。最後はベルリンで解散することになつて居る。

今回會議の會場としてはミュンヘン工科大學(Technische Hochschule zu München)があてられてゐる。先づ九月三日午前十時より工科大學の講堂に於て閉會式が催され午後から直ちに會議に入る。四日は午前午後とも會議に費し夜は會長主催の招宴に臨み五日も更に終日會議が開かれ茲で會議は打切りその後は視察に費される事になる。即ち六日、七日はミュンヘン附近の道路を視察したり又は名所を遊覽することになつてゐる。そして同日の夜再び工科大學に於て閉會式をあげることになつて居るのであるが更に翌八日は

自動車もさることながら自轉車も獨逸の道路にとつては重要な機關である。歐洲ではオランダについての自轉車

國で自轉車道その他色々の設備が近頃ととのへられてゐるらしい。吾が國の現状から見て参考になることが少くあるまい。此機會に國際道路會議の組織の大要を述べてみやう。第一回會議の主催者が佛國であつた關係上その後の會議の世話も同國でみる事となり巴里市に永續性の事務所をおいて居る。(Congres de la Route) 常任理事としてはガブリアン教授(M. Le Gavyian)が之にあたり尙、平理事として各國から代表者を任命してゐるが吾國では内務省土木局長が理事にあげられてゐる。

本會議の會員としては各國政府及び公共團體を代表する特別會員と規定の會員を納入する個人會員とがある。尤も會

議の開催にあたつて臨時に出席する臨時會員と云ふものも認められてゐる。一般會員には會議の場合の印刷物は無論であるがその外定期的に刊行する印刷物を頒布することになつて居る。吾國の加入者は政府の外公共團體として道路改良會、東京の道路研究會、大阪市役所及びセメント同業會位なもので甚だ心細い状態である。個人會員としても僅かに十五、六名の篤志家が加はつてゐるに過ぎないので此の機會になるべく多數の加入を希望する。ガブリアン氏からの私信もあつたので同會議の提燈をもつ次第である。因みに會費年額は政府の場合は一〇〇〇法、公共團體の場合は一〇〇法、又個人會員の場合は年額二五法である。

## 神奈川縣道路愛護共進會に就て

三宅秀太